

## R 元年度第 1 回安芸地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和元年 9 月 5 日（木） 9：30～12：00

場所：安芸総合庁舎 2 階 大会議室

出席：委員 24 名中、17 名が出席（代理出席 3 名含む）

議事：（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

（2）安芸地域アクションプラン 実行 3 年半の取り組みの総括について

（3）その他

議事（1）（2）（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）  
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）安芸地域アクションプラン 実行 3 年半の取り組みの総括について

（No.20 室戸市の観光資源を活かした交流人口の拡大・地域振興）

（東谷委員）

むろと廃校水族館の平成 30 年度来館者数は約 16 万 8,000 人であり、龍河洞の来場者数（95,565 人 H30. 1～12 月）をはるかに超えている。これほどの人が来たことに対しての県の評価や、今後の持続性について聞きたい。

（鍵山地域産業振興監）

廃校を活用した水族館であり、「廃校」という印象的なネーミングもあって、かなりの話題を呼び、我々の想定以上に人が集まっているというのが正直な感想。

館長の方針・運営の手法として、日々、新しいイベントを考えたり、情報をツイッター等で発信することに力を入れており、これらの取り組みが情報の受け手側を「行ってみたい」という気持ちにさせ、想定以上にファンがついているものと考えている。

（No.5 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化）

（常石委員）

備長炭は将来的にウバメガシの原木が不足してくる。循環体制をしっかりと整えておかないと、先がしんどくなりはないか。

（鍵山地域産業振興監）

原木を枯渇させずに循環していくため、どのようにウバメガシを植林・伐採すればいいかという試験を行っている他、作業道の開設等を毎年続けている。最近では、レーザー測量によるウバメガシの量・位置の把握及び情報共有による効果的な伐採方法も検討しており、何とか原木を確保できるよう取り組みを進めていきたい。

(松 安芸林業事務所長)

和歌山県では、ウバメガシを全て切ってしまうのではなく、太めの物から切り、細めのものを残す択伐というやり方をしていると聞く。技術的に難しい面があるが、林業技術センターでも試験的に実施しており、手法が浸透すれば、ある程度伐採のサイクルを短くできると思う。

(その他)

(山下委員)

自分自身が事業者として、ポンカンの生産や地域で獲れた鮮魚を提供する居酒屋経営等をしているが、人材確保が課題になっている。効果的な人材の獲得方法やPR方法があれば教えてもらいたい。

(鍵山地域産業振興監)

人材確保に関しては、多くの地域で人手不足という話を聞く。4月から県の移住促進・人材確保センターの求人支援コーディネーターが、安芸地域本部内に駐在している。地域を回る中で、効果的な求人の出し方等のアドバイスもしているので、紹介させていただく。

(No.7 芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大)

(竹内委員)

高鮮度処理魚の安定生産と販路確保について、漁業者への技術指導は行っているが、目標の売上に対し直近の実績がゼロ。人手不足が要因ということだが、どのような事情なのか。また、今後は方向性を転換するのか、それとも、地道にやっていくのか。

(鍵山地域産業振興監)

当初は、漁業者自らが高鮮度処理を行う予定であったが、水揚げされた魚を選り分け、1匹ずつ処理することはマンパワー的に難しく、取り組みが進まなかった。少しでも高付加価値を付けるため、まずは活魚という形で取り組みを進めていこうとしている。なお、買受人に高鮮度処理をしてもらう方法を検討するなど、高鮮度処理を完全に諦めるのではなく可能なやり方で進めていきたい。

(その他)

(福井委員)

お客様からキャッシュレス対応があまりされていないとの意見を結構いただいている。観光事業者向けのキャッシュレス対応の促進について、どのように考えているか。

(奥田観光政策課企画監)

商工労働部でキャッシュレス対応への助成や補助金等を検討しているため、また情報提供をさせていただく。

(以上)